

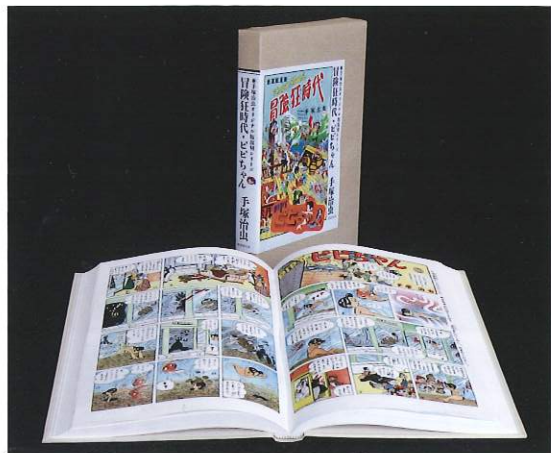
〈手塚治虫オリジナル版復刻シリーズ〉の特色

単行本化の度に描きかえては切り貼り、編集し、時には結末まで変更される手塚漫画。常に進化を求めた巨匠の姿勢は、単なる読者サービスの域を超え、まさに“編集狂”と呼ぶにふさわしい大胆かつ鮮やかなものです。

時代に応じた台詞の変更から、版型に合わせた描き直しや描き直し、さらには絵柄の改変まで。改訂の理由は様々ですが、ファンなら一度はオリジナル版で読みたいところ。何しろ後年の版では、原稿紛失によるトレスやエピソードごと丸々カットなんて荒技まで確認出来るのですから。

そんななか、本シリーズでは、とくに大幅な改訂が行われた作品を厳選、オリジナル版未読のファンの期待に応えるべく、各作品を掲載誌からダイレクトにスキャン。最新のデジタル処理を施すことで、発表時のオリジナル版の風合いのまま単行本化を実現しました。しかも、これまで単行本化の際に再現されなかった美麗なカラーページも忠実に復刻、さらにはこれが初単行本化の作品やイラスト、別冊付録まで網羅し、豪華貼函におさめました。

手塚ファンはもちろんのこと、全ての漫画ファンに贈る永久保存版。待望の復刻シリーズです。



*この写真はサンプルです。実際の商品とは多少異なる場合がございます。

各巻予価 6000～8000円 各巻平均約 220ページ
 体裁：B5判/函入/カラー（4色・3色・2色）・モノクロ
 プロデュース：古徳稔（手塚プロダクション）
 企画・編集：森晴路（手塚プロダクション）、濱田高志
 資料提供・解説：五十嵐正克 監修：手塚プロダクション
 デザイン：芥陽子（note）

全巻購入者特典！

本シリーズ（『冒険狂時代／ピピちゃん』『サボテン君』『ケン1探偵長』）全巻購入者全員に、『冒険狂時代』扉絵の複製原画（B5判・全5枚・オールカラー）をプレゼント！

※各巻の帯についての特典券を切り取り、書籍に封入された特典請求カードに貼ってお送りください（請求締め切りは最終巻配本の6か月後）。

『冒険狂時代／ピピちゃん』ISBN978-336-05153-0 C0979
 『サボテン君』ISBN978-4-336-05154-7 C0979
 『ケン1探偵長』ISBN978-4-336-05155-4 C0979

国書刊行会 〒174-0056 東京都板橋区志村 1-13-15 Tel 03-5970-7421 Fax 03-5970-7427
<http://www.kokusho.co.jp> e-mail: info@kokusho.co.jp

帖合・書店印

申
込
書

国書刊行会『手塚治虫オリジナル版復刻シリーズ』全巻を購入します。

お名前

ご住所

お電話

※必要事項をご記入のうえ、書店へお渡しください。

手塚治虫

（てづか おさむ）

本名、治。1928年11月3日、大阪府豊中市生まれ。大阪大学医学専門部卒業。医学博士。1946年「マァチャンの日記帳」でデビュー。1947年「新宝島」が大ヒットする。以来、日本のストーリー漫画の確立に尽くす。また、アニメーションの世界でも、大きな業績を残す。代表作に「鉄腕アトム」をはじめ「リボンの騎士」「火の鳥」「ジャングル大帝」「ブラック・ジャック」「ブッダ」「アドルフに告ぐ」等がある。



TEZUKA
OSAMU
80th

手塚治虫生誕80周年記念特別出版

手塚治虫 オリジナル版 復刻シリーズ

全3巻

ケン1探偵長



国書刊行会

©手塚プロダクション

華麗な色彩に彩られたオリジナリティ溢れる 物語を、底知れぬ魅力を秘めたオリジナル の描線で——これぞまさしく“オリジナル”!!

今まで単行本化されることのなかった
〈雑誌掲載オリジナル版〉を初めて完全復刻。
オリジナルの色彩を忠実に再現、雑誌そのままのサイズ、
さらに美麗函入の豪華愛蔵版でおくるファン待望の夢の企画!

第①回配本 (2009年10月下旬刊予定) 定価6300円(税込)

『冒険狂時代／ピピちゃん』

『冒険狂時代』

日本の少年剣士・嵐風之助が、1枚の宝の地図を携えて世界中を駆け巡る冒険譚。当初は、前半の西部劇のエピソードだけで終わる予定が、出版社からのリクエストによって連載が続行。その後も、主人公は、モロッコで外人部隊に入隊したり、バグダッドで魔法と呪文の世界へ入りこんだりと、物語は果てしなく横滑りを続ける。全編に渡って当時公開された映画のパロディが散りばめられ、そこには手塚による映画への深い愛情と憧憬が横溢している。各回の扉や大ゴマでは映画のポスターのように大胆な構図が採用されているのも見所のひとつ。後年、手塚は本作について「さっぱり要領を得ない、行きあたりばったりの物語」（講談社版手塚治虫全集あとがき）と述懐しているが、パワフルで荒唐無稽なジェットコースターのスピーディーな展開こそが本作の魅力。何より、瑞々しい描線で描かれるアクロパティックな活劇シーンや、細部にまで目配せした人物描写は見事というほかない。

【初出：『冒険王』（秋田書店刊）1951年12月号～53年8月号掲載】



『ピピちゃん』

“水中にんげん第一号”のピピが、海ガメのガボや機械だけの島の王子で自動車のエンジンらと共に様々な冒険をするファンタジー。地上に人間が送られたため、我が子を人魚に改造して海へ送ったリーマン博士夫妻は、息子殺しの嫌疑で検挙されてしまう。一方、海へ逃がされた息子は、海ガメのおぼさんに拾われてピピと命名され、おぼさんの息子のガボと共に元気に育った。やがて、おぼさんが潜水艇に押しつぶされ、その復讐を誓ったピピは、ガボと一緒に地上に上がるが……。元々は単行本用に考えられた物語だが、それを描きまとめる前に、単行本『化石島』（1951年）の完成が遅れたため、同作の1エピソードとして一部のアイデアを流用。その後、新たに連載作品として子ども向けの雑誌『おもしろブック』に発表された。ユニセックスで愛らしい姿が人気のピピは、後年『青いトリトン』（1969年1/2に『海のトリトン』と改題）のなかで、ピピとして再登場、そのほか『ブラック・ジャック』（1973年）など、ほかの手塚作品にも登場している。

【初出：『おもしろブック』（集英社刊）1951年12月号～53年5月号掲載】

第②回配本 (2009年12月刊予定)

『サボテン君』

普段はいたってお人好しでおちょこちよいだが、ミルクを飲むや、俄然、力がみなぎり、悪党を相手に大暴れる愛すべき人物、サボテン・サム。そんな彼を主人公に据えて描かれたのが、痛快西部劇である本作である。当時の手塚は、仕事を大阪から東京へ移して、本格的に漫画の仕事に取り組みはじめた時期で、その勢いがそのまま主人公のサボテンに反映されているようだ。

ミルクを飲むと百人力というサボテン君の設定は、アニメ『ポパイ』を連想させ、ほかにも駅馬車襲撃や砂金探掘、列車強盗など、映画さながらのスリリングな場面がふんだんに盛り込まれている。1回につき4ページの連載ということから、単行本ではストーリーの流れが断ち切られないよう巧みに加筆、編集されており、オリジナルでの復刻は今が初めて。さらに特別大付録『サボテン映写機』と、『サボテン君』（第1部）終了後に同誌にて連載され、わずか7回で未完となったロスタン原作の『シラノ・ド・ベルジュラック』を基にした『怪傑シラノ』も全話掲載（全集未収録）。同作ではサボテン君が見事な助演を果たしており、本書は「サボテン・サム出演作品集」的意味合いを持つ。

付録『サボテン！銃をとれ』は、オリジナルのまま横組にて別冊収録!

【初出：『少年画報』（少年画報社刊）1951年4月号～53年3月号／1953年12月号～54年12月号掲載（※『怪傑シラノ』『少年画報』1953年4月号～同年11月号掲載）】

第③回配本 (2010年2月刊予定)

『ケン1探偵長』

全国に26もの支社を持つ少年秘密探偵結社の探偵長・少年探偵ケンが、数々の謎やトリックを暴いて事件を解決する探偵推理漫画。いつもケンと行動を共にしている九角島のドングリは、一度聞いた人の声を正確に再現することが出来るケンの頼もしい右腕で、劇中での彼らは、インド奥地やドイツの古城など世界各地を横断して縦横無尽に大活躍。ハガールの冒険小説『ソロモン王の宝窟』（『ソロモンの洞窟』）のパロディ『ガンダーラの宝玉』や、自衛隊の将校がクーデターを企む『昭和新聞組』をはじめ、『リボン』の騎士の主人公サファイヤが意外な役柄で登場する『ゴリラ事件』、『少年クラブ』1955年3月号の別冊付録『透明人間』など『少年クラブ』版の全話をオリジナルのまま掲載した決定版。

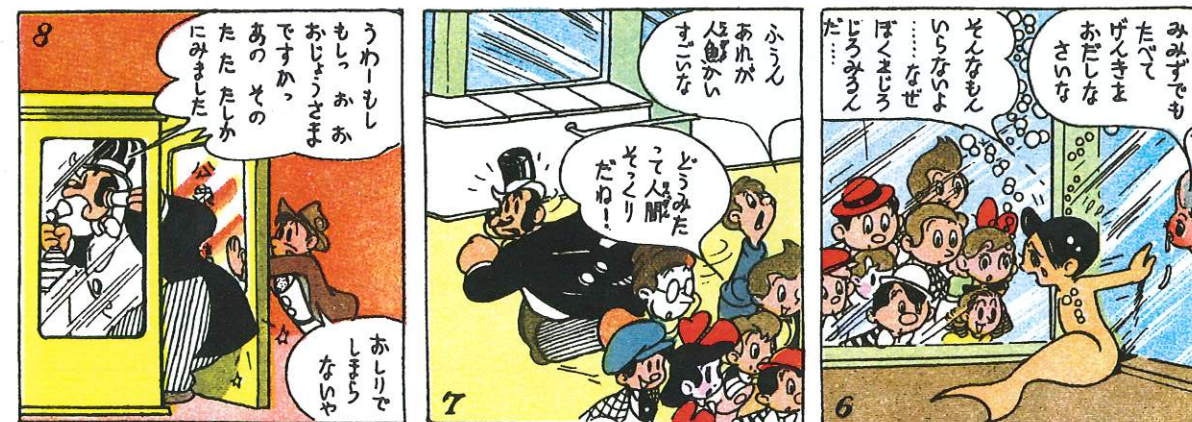
手塚のキャラクターシステムは有名だが、その初期の花形スターだったケンも、時代の趨勢と共に人気に翳りが見え始め、最後の花道とばかりに描かれたのが本作だったのは有名な話である。

付録『透明人間』はB6サイズにて別冊収録!

【初出：『少年クラブ』（講談社刊）1954年6月号～56年12月号掲載】



このページの作監解説：濱田高志



☆水族館からぬけだした、ピピちゃんのゆくえは？ 次号をたのしみに、おまちください。